せいけん詩集

第百十五篇

作：近藤せいけん

「チャンス　紙一重　その一」

朝から夏の暑い日が
ギラギラとさす
けだるい身体で
会社に向かう
歩きながら　昨日の
失敗した仕事が
頭に浮かぶ
「あ、あ～あ　何故　ああ、
もっと、やっとけば　いけると思ったが
悔やまれる　残念」
ため息がおもわず　こぼれる

重い足取りで　会社に着く
同時に電話が鳴る
「もし　もし　昨日の件ですが
もう一度　お話を伺いたいので
ご来社下さい」
相手の担当から呼び出しがかかった
もしや　もしかしたらと　不安と希望が
入り混じり　相手の会社に着く